

2025年度 自己点検・自己評価公表シート

認定こども園エクレス

1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）であり、教育テーマは「楽しい教育」である。

これらを実現するために次の教育保育理念、方針、目標を設置する。

＜教育理念＞

【「自ら育つ力」を育む】

＜教育保育方針＞

【「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の4つのつばさを育てる。】

＜教育・保育目標＞

「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。」

2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を図り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

【3～6歳児】

- ・異年齢の関わりが持てるよう、保育内容を吟味し指導計画を立て、年齢に応じた援助を行う。
- ・異年齢保育に限らず、同一学年の保育を行う中でも、常に子どもの成長にとってより良い環境を考案していく。
- ・長時間にわたる教育保育を必要とする場合は、園生活の中で活動と休息、緊張感と解放感等の調和を意識すること。

3. 学年別目標・計画

0歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係の基礎を育てる。
1歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2歳児	保育士と安定した関わりの中で、自分でしようとする意欲を育て、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的生活習慣を身に付けられるようにする。
3歳児	友達との関わりを持ち、色々な経験を通じて園生活を楽しむ。
4歳児	園生活に慣れ親しみ、基本的生活習慣を身につけ、集団の中の一人として自立する。
5歳児	学級の中で一人一人が自己発揮し、自分たちで自主的に園生活を進めていくようにする。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教育・保育目標の理解と周知 教育・保育理念、教育・保育方針、教育目標について、全教職員が共通理解できる取り組みができているか	建学の精神、教育・保育理念および目標について、常勤職員を中心に概ね理解が進んでおり、日々の保育実践の中で意識して取り組む姿が見られました。一方で、園全体としての共通理解という点では、非常勤職員を含めた周知の方法や機会について、さらなる工夫が必要であることが確認されました。今後も、朝礼や会議、資料の活用等を通して、全職員が同じ方向性をもって保育にあたれるよう取り組んでいきます。
2. 教育・保育内容 教育・保育要領の理解、教育・保育指針を踏まえた指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができる いるか 本園の特長的な教育について、実施方法を教職員間で話し合い、常に改善につなげているか	教育・保育要領および指針への理解については概ね良好であり、指導計画は年齢や発達段階、子ども一人ひとりの姿に応じて作成されています。日々の保育記録を職員間で共有し、次の保育に活かす意識も定着しつつあります。特長的な教育については、実践を通して改善を図っていますが、理解や実施方法に職員間で差が見られるため、引き続き話し合いや研修を重ねていく必要があります。
3. 教育・保育環境 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができるか	教材・教具の準備や活用については、園児の興味や主体的な活動を引き出す工夫がなされており、概ね適切な環境構成が行われています。今後は、モンテッソーリ教育のねらいを踏まえた提供方法や言葉かけについて、より統一した対応ができるよう、知識と技術の向上を図っていきます。
4. 行事 ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数は適切か PDCA体制をとっているか	行事は、それぞれのねらいを意識しながら計画・実施されており、子どもの育ちにつながる機会となっています。一方で、行事の時期や準備期間の設定については、業務の集中や保育の負担感につながる場面も見られたため、今後は余裕をもった計画となるよう見直しを行っていきます。
5. 教職員の役割・資質向上 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の教職員との連携はできているか 新人教育の体制は確立されているか	教職員は専門職としての自覚を持ち、子ども一人ひとりに寄り添った関わりを大切にしながら保育にあたっています。協力体制や情報共有も概ね良好ですが、新人職員や経験の浅い職員への育成・支援については、体制や内容の継続的な見直しが課題として挙げられました。

評価項目	取り組み状況
6. 特別支援教育 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができるか	特別な支援を必要とする園児については、個別の支援計画を作成し対応していますが、職員間での情報共有が十分とは言えない場面もありました。今後は、共有方法や運用ルールを整理し、より一貫した支援ができる体制づくりを進めていきます。
7. 保健・安全指導 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができるか	避難訓練や安全指導、施設・設備の点検は計画的に実施されており、職員の安全意識も高く保たれています。アレルギー対応についても複数確認体制を整え、事故防止に努めることができました。引き続き、安全・安心な保育環境の維持に取り組みます。
8. 保護者との連携・情報 個々の園児について入園前から現状の家庭での生活の様子も把握し保育に活かせているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	日常の連絡や行事を通して、保護者との信頼関係を築くことができます。要望や意見についても、丁寧に受け止め、園運営や保育内容の改善につなげています。個人情報の取り扱いについても、法令を遵守し適切に管理しています。
9. 子育て支援 地域の子育て支援として、園庭開放等ができるか 就労している保護者支援として、横浜市の基準に即した預かり保育ができるか 未就園児支援として、保育や講座等を企画したり、交流の機会を設けているか	未就園児を対象とした行事や子育て支援事業を継続的に実施し、地域の子育て家庭とのつながりを大切にしてきました。保護者同士が交流できる場としても機能しており、今後も内容の充実を図っていきます。
10. 幼保小連携・地域交流 地域の小学校との教育交流、地域住民の方への園行事等の周知、参加交流を行っているか	近隣の小学校や保育施設との交流を通して、就学に向けた取り組みや地域とのつながりを大切にしています。今後も、子どもの育ちを見据えた連携を継続していきます。

評価項目	取り組み状況
11.運営管理 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができるか 保育園部分と幼稚園部分の連携が取れているか 保育室等の環境の整理・整備ができるか ヒヤリハットを記録・共有し、教育・保育に役立てているか	職員の役割分担や情報共有は概ね適切に行われていますが、ヒヤリハットと事故報告の整理については、記録方法の見直しが必要であることが明らかになりました。また、幼稚園部門と保育園部門の連携についても、より一体感のある運営を目指して改善を進めていきます。
12.特長的な教育 モンテッソーリの教育理念を理解しているか モンテソーリ教育を取り入れている意味や目標を理解しており、内容・提供方法について、前向きに取り組むことができているか 「表現教育」とは何かを理解しており、内容・実施方法について、率先して取り組むことができているか 異年齢保育を取り入れている意味や目標を理解しており、率先して取り組むことができているか	モンテッソーリ教育、表現教育、異年齢保育については、経験を積んだ職員を中心に理解と実践が進んでいますが、職員間で理解度の差が見られます。園内研修等を活用し、教育のねらいや意義を改めて共有しながら、園全体で質の向上を図っていきます。 特別教育については科目や講師によって差があります。委託業者や講師との連携を密に行い、改善点を迅速に共有し、指導に反映していきます。 職員の知識レベルをUPするための研修等も定期的に行っています。「楽しい教育」を教育のテーマとして、教員自身が楽しんで取り組み、子どもたちが笑顔で楽しめる教育の場を提供し続けていきます。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
1.教育・保育目標の理解と周知	教育・保育理念および目標について、非常勤職員を含めた全職員への理解と周知をより一層徹底していきます。朝礼や職員会議、資料の活用を通して、日々の保育実践と理念が結びつくよう継続的に取り組みます。
2.教育・保育内容および環境	教育・保育要領や指針への理解をさらに深めるとともに、モンテッソーリ教育をはじめとした特長的な教育について、教材のねらいや提供方法、言葉かけ等を職員間で共有し、保育の質の均一化と向上を図ります。
3.行事の計画と運営	行事の時期や回数、準備期間を見直し、日常の保育とのバランスを考慮した計画を立てることで、子どもにとっても職員にとっても無理のない行事運営を目指します。
4.教職員の育成と資質向上	新人職員や経験の浅い職員が安心して成長できるよう、育成プログラムやフォローバック体制の見直しを継続的に行います。技術面だけでなく、精神面のサポートも含め、全職員で育て合う体制を大切にていきます。
5.特別支援教育	特別な支援を必要とする園児に対して、より一貫した支援が行えるよう、情報共有の方法や運用ルールを整理します。関係機関や家庭との連携を大切にしながら、園全体で支援の質の向上に努めます。
6.運営管理と連携体制	ヒヤリハットと事故報告の記録方法を見直し、原因や改善点が明確になる仕組みづくりを進めます。また、幼稚園部門と保育園部門の連携を強化し、一つの園としての一体感を高めています。

今後も本園では、自己評価を教育・保育の質の向上と園運営の改善につなげ、子ども・保護者・地域から信頼される認定こども園を目指して取り組んでまいります。

2025年1月20日